

IV. 碧南市の地域力の分析

(1) 地域力を活かした子育て支援機能の確保にむけて

① 碧南市の今後の子育て支援施設の基本的視点

国の示す地域の子育て支援機能の充実を図るための拠点施設は、それぞれ“親子の交流”、“地域との交流”がテーマとなっています。親と子の育ちを地域で支えて孤立した子育てをなくしていくことが重要視されるなか、地域の力なくして、“子育ての新たな支えあいと連携”は実践できない課題です。「碧南の地域力を子育てに活かすこと」と「地域や子育て経験者が子育てを支援する環境をつくること」を基本的な視点に、その実現にむけて取り組むにあたり、まず子育てに関する碧南の「地域力」と、地域の子どもたちに対する思いを把握することが重要であることから、地域力アンケートを平成18年度に実施しました。

今後は、調査対象を拡充してアンケートを実施したり、回答に協力してくれた団体等に結果をフィードバックして具体的な実施方策の検討に役立てていきます。

《子育て拠点についての視点と地域力アンケート》

- ・碧南の地域力を子育て支援に活かす
- ・地域や子育て経験者が子育てを支援する環境をつくる

子育てに関する「地域力」を把握する必要

「地域力」アンケートの実施

(調査結果はP31 (2) 地域力アンケートの実施を、調査内容は参考資料を参照)

②潜在する地域力の把握と育成

地域力アンケートの結果を、様々な角度や手法により分析して、地域力を高める取組みにつなげていくことが重要です。

1つの視点として、2007年問題といわれ、団塊世代（第2次世界大戦後の復興初期である昭和22年から24年に生まれた世代）が定年を迎えはじめる平成19年度以降、労働力不足など企業活動への影響が懸念されている問題があります。

一方、これまで仕事中心で地域と関わりの薄かった世代が、これまでの経験を活かして、地域での子育てやまちづくりの力になることが大きく期待されています。

文部科学省が行った「地域子ども教室推進事業（平成19年度より放課後子ども教室事業に再編）」に関するアンケート調査によると、地域子ども教室推進事業には、全国的に指導員として地域の高齢者（56.8%）や青少年・スポーツ関係団体（55.6%）やPTA関係者（49.1%）、ボランティアとして地域の高齢者（55.6%）やPTA関係者（47.3%）が参加しています。そして、参加したことによって「参加して地域の子どもに関する意識・関心が高まった」、「子どもの居場所づくりに関心が高まった」、「地域に友人・知人が増えた」という意見が多くみられ、参加する大人自身も活動を通じて変化を感じているという効果が見受けられます。

以上のような状況を参考に、地域力の把握と育成に取り組んでいきます。

(2) 地域力アンケートの実施

子育て支援に地域の力が期待されるなか、地域にどのような力が地域にあって協力の体制がとれるのかを把握することが初期段階として不可欠です。

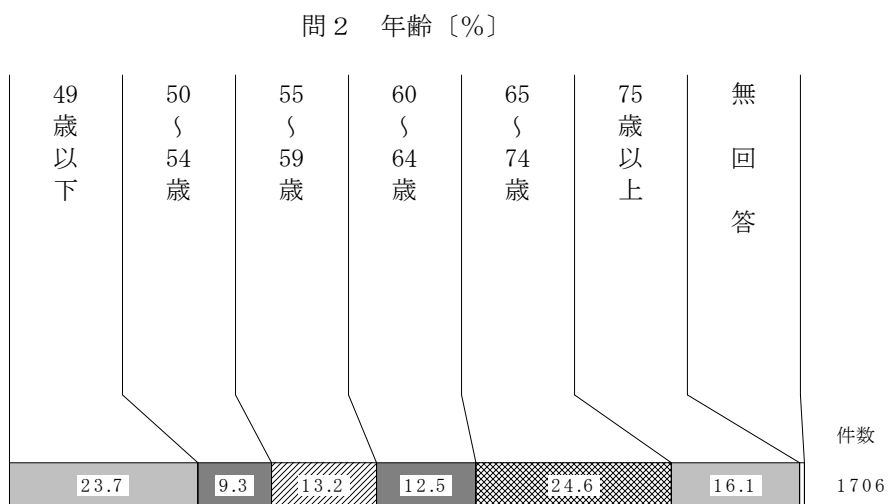
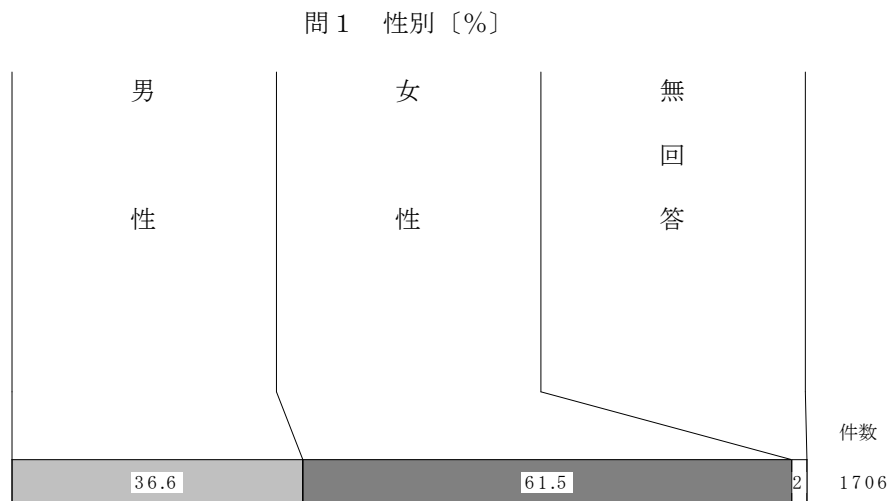
このようなことから、老人クラブ（西端、荒子、大浜下の3地区）、民生委員（高齢者部会）、女性団体（消費生活保護協会、更生保護女性会）、企業従事者関係団体（アイシン、山水会）等にアンケート調査を留め置き法で平成19年2月下旬～3月上旬に実施しました。また、あおいパークで聞き取り調査を平成19年3月4日に実施しました。回答数は1,706票となっています。

①回答者の属性

■回答者の性別・年齢■

回答者は女性がやや多く、62%を占めています。年齢は65歳以上が40%を占めている。

《回答者の性別・年齢》



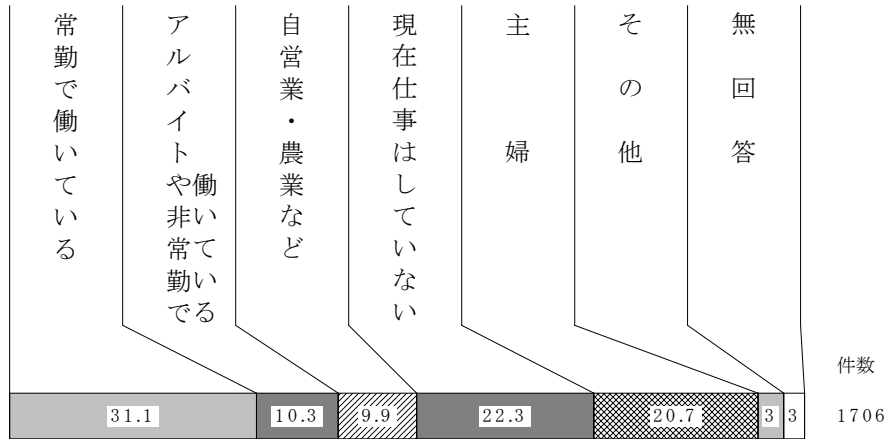
『地域力アンケート』

■就業状況■

市内の企業従事者からも回答が得られたこともあり、常勤で働いている回答者が31%、アルバイトと自営業を含めると、回答者の就業率は51%となっています。

《就業状況》

問3 就業状況〔%〕



その他：パート13人、無職8人、内職5人、シルバー人材センター3人、学生2人等

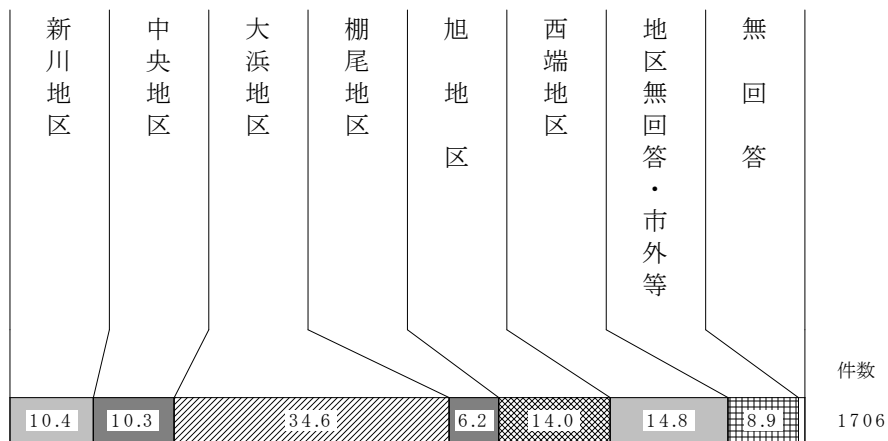
『地域力アンケート』

■居住地区■

地区の団体が回答されていることから、居住地区は大浜地区が35%と多くなっています。また、企業従事者が回答されていることから、市外の回答者もみられます。

《居住地区》

問4 居住地区〔%〕



その他：西尾市16人、高浜市15人、刈谷市12人、名古屋市10人、安城市6人、一色町4人

『地域力アンケート』

②地域活動や地域での子育て支援について

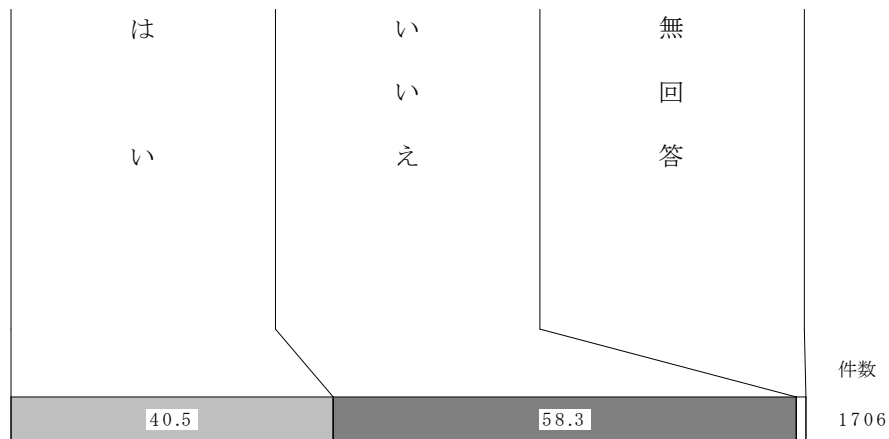
■地区の行事■

自身の住んでいる地区の行事に参加したことがある割合は41%で、参加歴のない人の方が多くなっています。

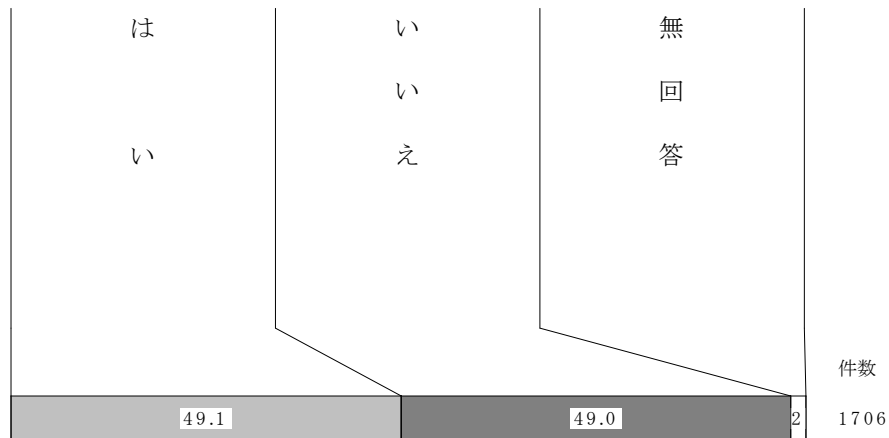
今後の参加については、機会があれば参加したいという意見が10%程度上昇しています。

回答結果から考察すると、碧南市外の回答者がいることに加え、地域の祭りは含まずに回答している場合があると考えられます。

問5 地区行事の参加歴 [%]



問6 地区行事の参加意向 [%]



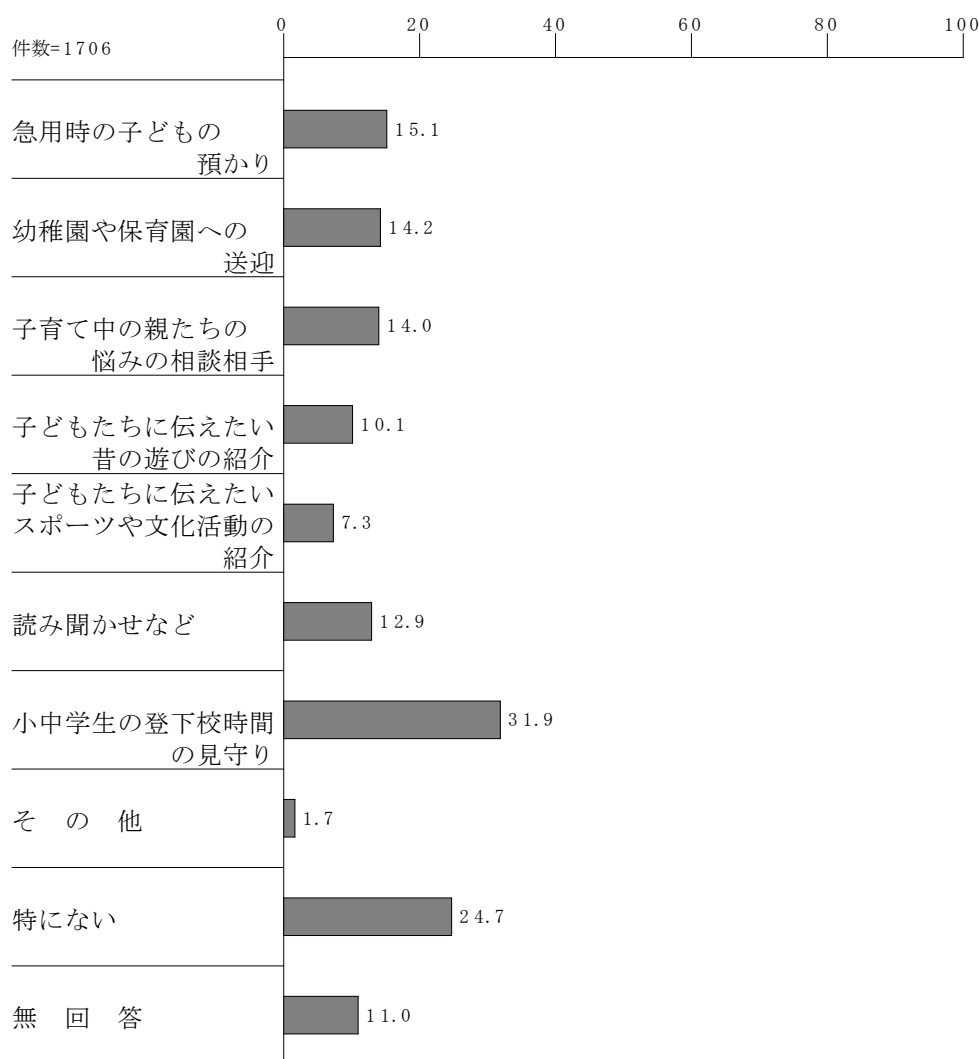
『地域力アンケート』

■支援したい子育ての地域活動■

小中学生の登下校時間の見守り活動が多く回答されており、現在老人クラブで登下校時間の見守り活動が行われていることから、回答率が高くなっているものと思われます。

一方、「特にない」も 25%回答されており、地区の行事に参加したことがない回答者で多くなっており、地域での子育て支援の重要性について啓発することも必要と考えられます。また、従来からの取組みに回答が多いことなどから、地域の子育て支援の具体的な姿がみえないと、取組みにくく、それまでにきっかけとなる場や大人と子どもたちの交流(顔見知りになる)が不可欠と思われます。そして、子どもたちの関心を把握し、地域のできることを整理して、少しずつモデル的に展開することが必要といえます。

問7 支援したい子育て地域活動 [%・複数回答]



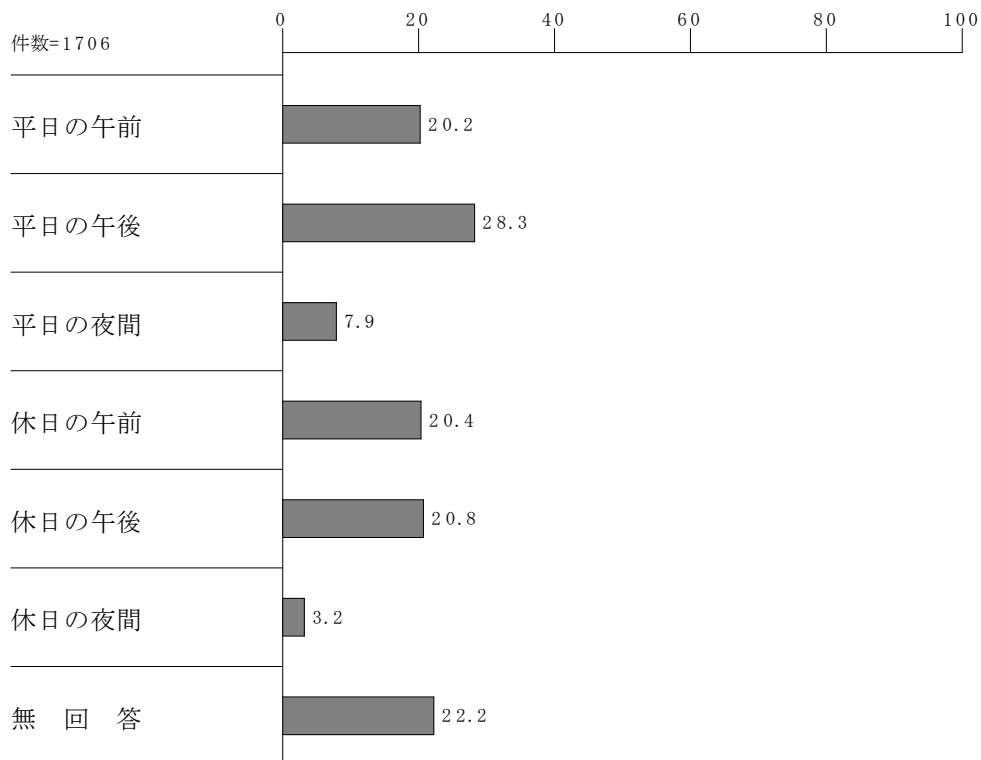
その他：読み書きソロバンや工作等指導 10 人、会社見学 2 人、遊び場（集り場）・畑の提供 2 人、赤ちゃん誕生訪問 1 人、子供会などの行事への付き添い遊びの企画→・自然観察 ・潮干狩 ・登山 ・歴史 ・海水浴 1 人、食育 1 人、子どもたちの遊び場施設の見守り 1 人、今は孫を預かっているが、地域の子となると責任がもてない 1 人、孫がいないから子どもを預かったり、幼稚園・保育への送迎ならできる 1 人、家の近くの公園のゴミひろいをしている 1 人、できない 3 人

『地域力アンケート』

■参加できる時間帯■

子育て支援の活動や地域の活動に参加するとしたら、参加できる時間帯は、平日の午後という回答がやや多く、休日の午前・午後、平日の午前が20%程度で続いています。

問10 参加できる時間帯 [%・複数回答]

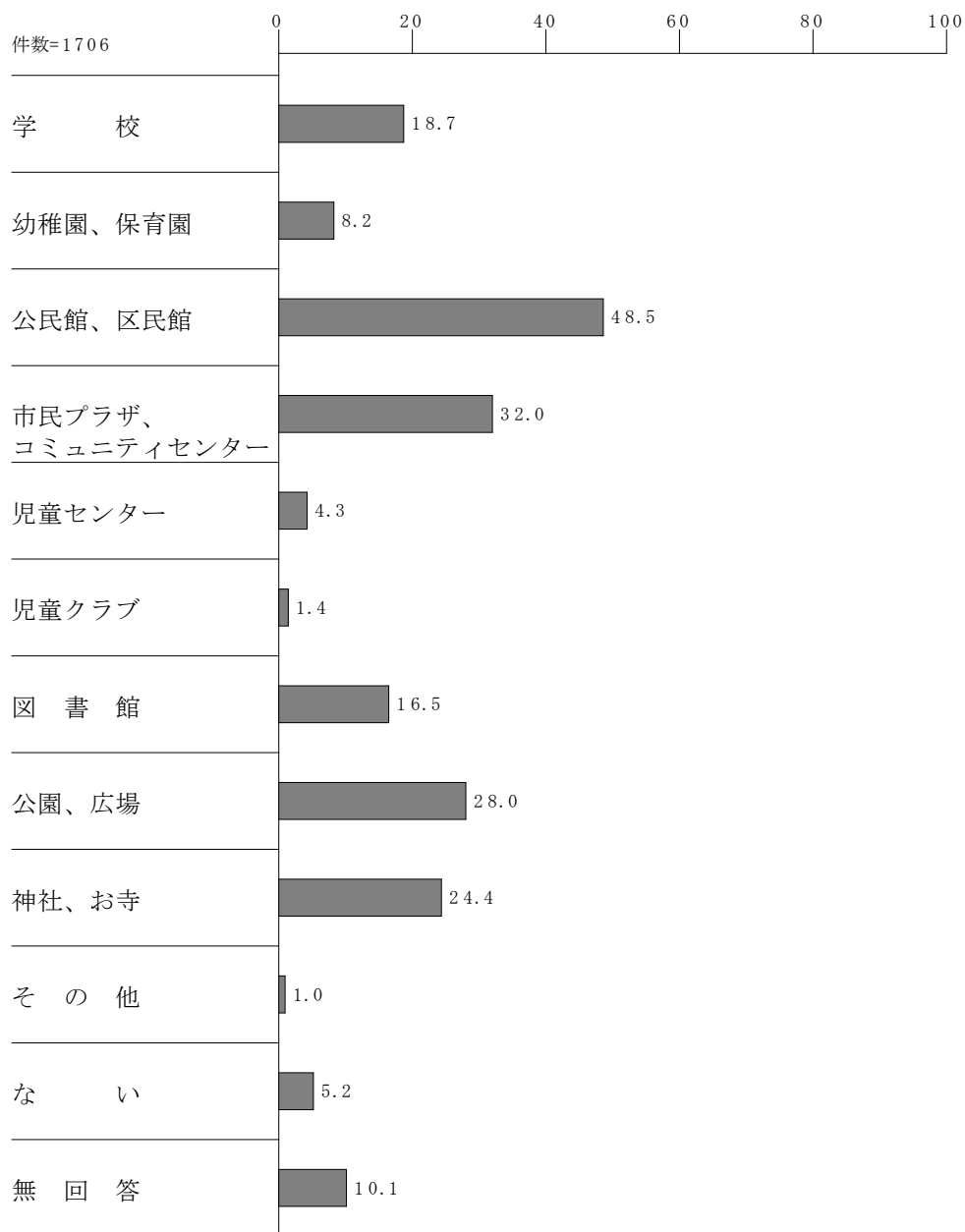


『地域力アンケート』

■地域で気軽に利用できる場所■

自分の住んでいる地区のなかでは、公民館や区民館が気軽に利用できる場所として多く回答されています。ついで、市民プラザ、コミュニティセンターが回答されており、大浜地区の回答者が多いことが関連していると思われます。また、屋外の公園・広場や神社も比較的回答が多くなっています。

問11 気軽に利用できる場所〔%・複数回答〕



その他：新川まちかどサロン・体育館 3人、ゲートボール 2人、農協 2人、ものづくりセンター1人、ゴルフ場 1人、勤労センター1人、図書室 1人、地域の活動施設を知らない。1人、わからない1人、知らない1人

『地域力アンケート』

■子育てを地域で支える地域づくりにむけて■

多かった意見：上位3件	件数
現在の子育てについての意見、地域づくりへの提案など	207件
昔の遊びについて	118件
昔と今の社会・地域の違いについて。	54件

『地域力アンケート』

③団体ヒアリング

アンケート調査に先立ち、団体へのヒアリングを平成18年10月に実施しました。主な内容をまとめると以下のとおりであり、その他の団体等へも今後継続してヒアリングを行い、地域の課題と地域力の把握を進めていきます。

《西端地区教育懇話会・おやじの会・更生保護女性会との意見交換会での主な意見》

- 地域で意欲のある人、関心のある人が、本当に支援の必要な子どもに関われるようにすべきである。
- 親自体が子どもとの遊び方がわからない状態がみられることから、昔ながらの「遊び」にふれてはどうか。
- 昔は子どもたちのコミュニティがあったので、年上の人から教えられたり、守ってもらえたりした。子どもたちのなかでリーダーを育成することも必要だろうし、学校や保育園・幼稚園のコミュニティづくりも必要だと思う。
- 大人・親側に地域の行事や地域に参加しようとか、地域で暮らしているという意識が低下しているのではないか。大人・親の意識改革が必要なのではないか。
- 近所のおせっかいおばさん、おじさんが、子どもや近所の人に声かけして、地域に安心感がでてくることは大切なことでは。
- 地域の子育て支援にむけては、小さいことから有志で始めればよいと思う。

(3) 碧南市の地域力の現状

碧南市では「地域の祭り」、「子ども会」、「ごみ分別」、「元気ッスへきなん」など、様々な年代の人が関わり、参加して培った地域のつながりと地域力、地域が関わって取組んだ経験と成果があります。

しかしながら、今回実施した地域力アンケートでは、支援したい子育ての地域活動としては、「急用時の預かり」、「幼稚園や保育園の送迎」、「小中学生の登下校時間の見守り」などで、これまでも行われてきた内容が中心となっており、異世代（祖父母世代、親世代、子世代）が交流するような積極的な内容は乏しい状況です。これは、自分の子育てがある程度終了すると子どもと関わる機会が途絶えてしまうことや、少子化と都市化で地域にいる子どもがわからない、見かけないという状況が考えられます。それにより、子育てに関する地域力がうもれてしまっているとともに、子育ての地域力として育っていない状況の表れであると思われます。あわせて、地域の人や子育てを経験した人が、地域で子どもと子育て家庭を支援するような環境ができあがっていないことが最大の要因といえます。

今後の子育て支援に、地域力なくして子育て支援のさらなる充実は期待できません。このため、うもれてしまっている地域力を育成し、地域で子どもと子育て家庭を支援する環境づくりを進めていくため、「集う場」「安心できる居場所」「交わる場」としての機能をもつ拠点が必要です。そして、そこを拠点に、地域が子育てに関わるとはどのようなことなのか、どのようにしたらよいかを具現化するため、モデルを提示するなどきっかけと仕組みづくりに取り組むことにより、碧南市独自の地域力が発揮されることが期待されます。

《へきなんの地域力を子育てに》

地域のつながり、地域力は存在しているし、大きな力となっている



○地域の祭り、子ども会、ごみ分別、元気ッスへきなん等

地域が子育てに関わる機会は少ない



○子育て期間を過ぎると関わりにくい。 ○地域の子どものことがわからない。
○地域の力を子育てに活かす方法がわからない。

これからの子育て支援を推進する地域力がうもれてしまっている



○放課後子ども教室推進事業などを当初から地域に全面的に任せることは困難。

子育て家庭も地域も「子どもたちに地域の関わりが重要」と思っている



○子育て家庭は「地域に積極的に関わってほしい」、地域も「関わってみたい、どうしたらよいか教えてほしい」という意見がアンケートのなかでみられる。

うもれている地域力を子育てに活かす方法・環境づくりが重要である

集う場

安心できる居場所

交わる場